
世界で一番簡単な推理小説

春風雨雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界で一番簡単な推理小説

【著者名】

N3194D

春風雨雲

【あらすじ】

簡単なんだけど奥が深い、舞台は東京湾に浮かぶ架空の島、「神寝島」。神が眠ると言う伝説があるこの島を舞台に殺人事件が展開されます。果たしてこの島で起つる惨劇の真相は?そしてこの島に伝わる伝説の真相は。

プロローグ（前書き）

初めて推理物の小説を書かせていただきます。評価をして頂ければ幸いです。

プロローグ

1998年、東京都・神寢島かみねじま、神が眠る島・・・都心のから船で40分、

人口約3千人。この島には昔からある伝説がある。『神寢島秘宝伝説』いつしかその伝説はネット上で噂とつていた。1説によるとその宝はこの島のどこかの祠ほじの中にあるらしい。が、いまだに宝は見つかっていない。

「卒業旅行しようぜ！」

教室の机で寝ていた俺の後ろから大きな声が聞こえる。正直かつたるかつた。

「なんで上級生が2年の教室にいるんだ？水野先輩。」

水野豊、この人は俺の1つ上の学年で幼馴染。ムードメーカー的な人だ。

「おいおい、先輩なんて水臭いぜ『ワトソン君』。」

ちなみに『ワトソン』とは俺のあだ名。昔からジャンケンが弱かつたせいでいつも「かばん持ち」、つまり助手的な役割、イコール『ワトソン』というわけだ。

「でか、今日は何？」

昔からこの人の持ちかける話には何か裏があった。例えばあれ

は小学校3年の時。

「おーい、冒険しようばーー冒険ーー！」

ちなみにその頃の俺はまだ純粋だった。

「行く！ 行くよ！」

で、着いた先は・・・・通称『犬屋敷』^{ドッグ・プランネット}と呼ばれる家の前だった。なぜそう呼ばれているのかと言つと大きなドーベルマンが3匹、ヨダレをだらだらたら垂らしながら玄関の前の檻を徘徊していたので近所の子供たちの間では有名だったのである。

「ね、ねえゆうちゃん、いこひつあ。」

目から不思議と水が溢れてきた。それはただ単に『恐怖』と言つ2文字からだつた。

「ああワトンソンくん、行こひつかー夢とおどせの国ぐ。(なに言つてんだ、ここつは・・・・・・)

犬の檻の向こうには『サッカーボール』が落ちていた。この時俺は始めて気がついた・・・・利用・・された?と。

「も、もしかして・・あ、あのボール。」

紛れも無くそれは俺のサッカーボールだった。

「フ、フ、フ、君のだよワトンソングン。」

悪魔のよつな笑顔で豊が笑っていた。

「ど、どひしてあんな。 わんちゃん達のおりの前にあるの？」

豊はしばらく考えた後に手をポン！と叩いた。

「それはな・・・・・ 悪の組織が超能力でボールをテレポーテーションさせたんだよ。さあ、早くボールを取り戻すんだ！」

泣く泣くボールをとりに行つた俺が犬嫌いになつたのは言つまでもない。そんなこんなでこいつの言つことは信用できないと俺の頭の中にインプットされていた。では話を戻そう。

「実はな、俺、思つんだよね。このまま卒業しちゃつていいのかなつて。なにか二つ・・・もやもやつて言つつか。」

明らかに嘘っぽかった。

「どひでもこいけど、どひ行くんだよー。」

「へ、へ、へ、聞いて驚くなよー。『神寢島』だよ。」

豊はいつものように白漫げに答えた。

「知らねーよ。どひだよそー。」

そう聞くと豊かはパンフレットを取り出した。

「これだよ、この島。」

写真には大きな神社とキレイな自然が写っていた。

「ふーん。」

随分簡単なパンフレットだった。予算3000円で素敵な旅を・・・

「や、3000円…… や、安くさだら…… これゼットーサギ
だって。」

豊の表情は明らかに怪しかった。

「いやいや、国内だから平氣だろ。あと、美奈と旬と真希誘つ
た。ちなみにおやつは500円までね。」

「泊二日でしかも飯と船の往復込みで? しかもあいつらも?
怪しい。」

「あいつらこれんの? しかも俺とタメ『真希』だけだし。
で、いつ行くの?」

その答えを待ち望んでいたかのように豊が答える。

「来週から冬休みだる、だから1~2月26日から3月9日までだ、じ
やあ詳しく述べ俺様専用公式サイトに乗せとくから。じゃあまたな。」

そう言い残して豊は俺の教室を後にした。俺専用とかいっても全部

俺がつくったようなもので・・・。

「しょうがない。バイト、休むかな。」

♪♪今年のクリスマスも一人ぼっちか・・・はあ・・・。

そんなこんなで昔を思い出してた。

昔はよくこの5人でよく『冒険』をした。そんな軽いノリで俺は島に行くことを決めた。

だが、この時の豊の一言がきっかけで俺たちは事件の渦に巻き込まれてゆく・・・そんなこと、今、この時の俺は気づくことができなかつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3194d/>

世界で一番簡単な推理小説

2010年10月15日23時15分発行